

6 資産バランスファンド (分配型／成長型) (愛称：ダブルウイング)

<3059> <3060>

(分配型)追加型投信／内外／資産複合

日経新聞掲載名：Wウイング分

(成長型)追加型投信／内外／資産複合

日経新聞掲載名：Wウイング成

(分配型)

第181期 2021年4月6日決算 第184期 2021年7月6日決算

第182期 2021年5月6日決算 第185期 2021年8月6日決算

第183期 2021年6月7日決算 第186期 2021年9月6日決算

(成長型)

第31期 2021年9月6日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、内外の債券、株式およびリート（不動産投資信託）に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

(分配型)

第186期末	基準価額	10,273円
	純資産総額	3,146百万円
第181期～第186期	騰落率	7.6%
	分配金合計	60円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(成長型)

第31期末	基準価額	13,524円
	純資産総額	3,983百万円
第31期	騰落率	14.9%
	分配金	1,000円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を含めて計算したものです。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先

 コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

◇SKU0305920210906◇

「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

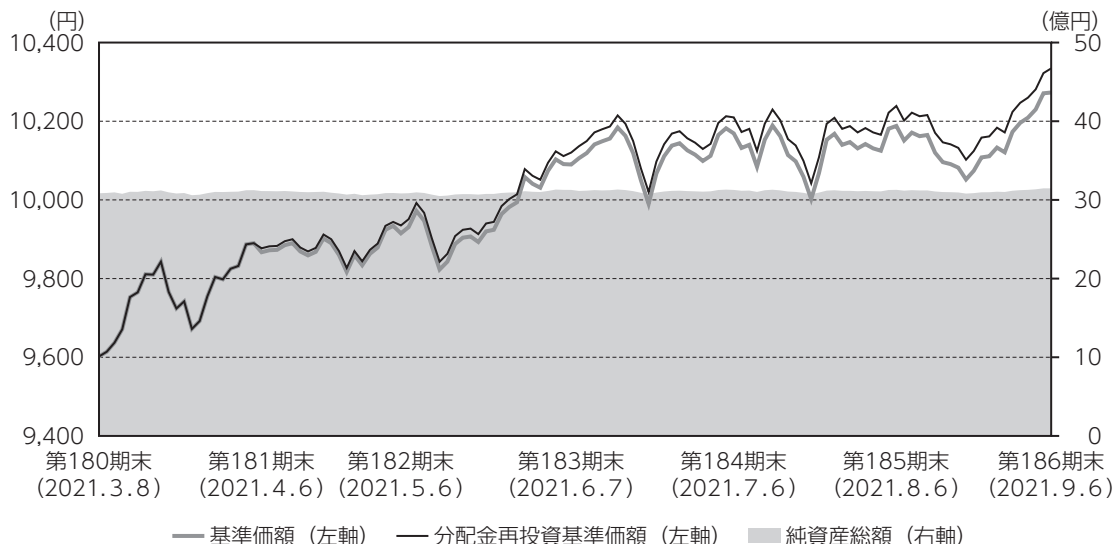
上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択

分配型



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります (分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

第181期首：9,602円

第186期末：10,273円 (既払分配金60円)

騰落率：7.6% (分配金再投資ベース)

■ 基準価額の主な変動要因

各マザーファンドの受益証券を通じて、内外の債券、株式およびリートに投資した結果、主に内外の株式市況やリート市況、海外債券市況が上昇したことがプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

■ 組入ファンドの当作成期中の騰落率と期末の組入比率

組入ファンド	騰落率	比率
ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド	2.8%	48.9%
ダイワ日本ハーモニースtock・マザーファンド	10.5%	10.4%
ダイワ外国ハーモニースtock・マザーファンド	19.4%	10.1%
ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド	24.9%	10.1%
ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド	17.2%	9.9%
ダイワ日本国債マザーファンド	0.6%	9.7%

1 万口当りの費用の明細

項 目	第181期～第186期 (2021.3.9～2021.9.6)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	70円	0.700%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,003円です。
(投 信 会 社)	(34)	(0.343)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(33)	(0.330)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.027)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	2	0.022	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(1)	(0.011)	
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
(投資信託証券)	(1)	(0.012)	
有 価 証 券 取 引 税	0	0.003	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(0)	(0.001)	
(投資信託証券)	(0)	(0.002)	
そ の 他 費 用	2	0.018	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.016)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(△0)	(△0.002)	税金の戻し、信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	74	0.744	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

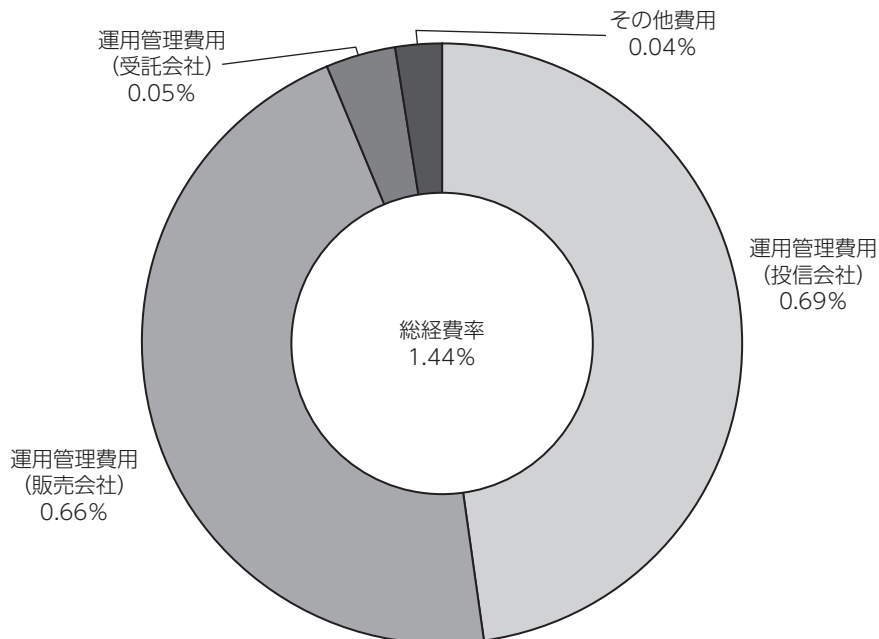
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.44%です。

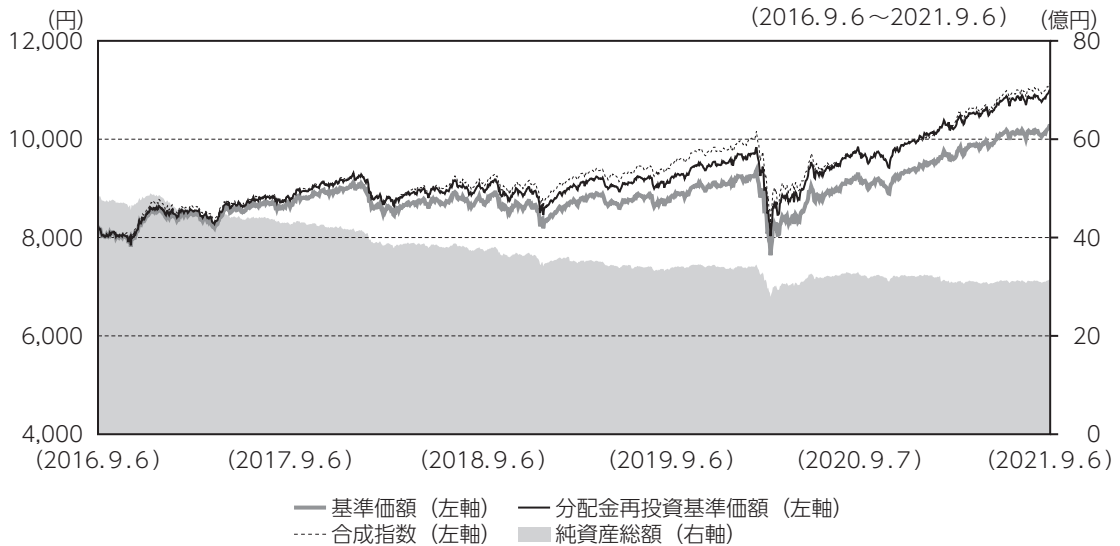


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2016年9月6日の基準価額をもとに指数化したものです。

*参考指数は合成指数です。

		2016年9月6日 期初	2017年9月6日 決算日	2018年9月6日 決算日	2019年9月6日 決算日	2020年9月7日 決算日	2021年9月6日 決算日
基準価額	(円)	8,235	8,618	8,728	8,835	9,172	10,273
期間分配金合計 (税込み)	(円)	—	130	120	120	120	120
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	(%)	—	6.3	2.7	2.6	5.2	13.4
合成指数騰落率	(%)	—	6.7	3.7	4.3	2.1	14.7
純資産総額	(百万円)	4,871	4,255	3,753	3,386	3,243	3,146

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 合成指数は、下記の指数と配分比率をもとに大和アセットマネジメントが計算したものです。海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

投資対象資産	指数	配分比率
海外債券	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	50%
国内債券	ダイワ・ボンド・インデックス (DBI) 国債指数	10%
海外リート	S & P先進国REIT指数 (除く日本、円換算)	10%
国内リート	東証REIT指数 (配当込み)	10%
海外株式	MSCIコクサイ指数 (円換算)	10%
国内株式	TOPIX	10%

(注) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

投資環境について

(2021.3.9～2021.9.6)

■ 海外債券市況

海外債券市況は、金利低下（債券価格は上昇）しました。

当作成期首より、米国金利はレンジで推移しましたが、2021年6月以降は、将来の利上げ後の経済回復ペースや物価上昇圧力の鈍化が意識されたことで、長期ゾーンを中心に金利は低下しました。またオーストラリアも、新型コロナウイルスの感染者数拡大などから成長率鈍化が意識され、金利低下となりました。

■ 国内債券市況

国内債券市場では、長期金利は低下しました。

2021年3月の金融政策決定会合で日銀が長期金利の変動幅の明確化等を決定しましたが、政策の大枠に変更はなく、その後、国内長期金利は上下に変動しつつも基調として低下しました。6月以降は、米国長期金利の低下や新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、国内長期金利は低下しました。

■ 海外リート市況

海外リート市況は上昇しました。

米国では、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展による経済正常化期待や、好調な決算発表などを好感して上昇しました。欧州では、ワクチン普及による経済正常化期待や隔離措置の緩和などを受けて、英国やドイツを中心に上昇しました。アジア・オセアニアでは、好調な業績見通しなどを背景に、オーストラリアが上昇しました。

■ 国内リート市況

国内リート市況は上昇しました。

国内リート市況は、当作成期首より、国内外での金利上昇懸念が後退したことに加えて、FTSEグローバル株式指数による国内リーートの組入比率引き上げなどにより需給が改善し、上昇しました。2021年4月には、米国投資ファンドによる中堅オフィス銘柄へのTOB（投資口公開買い付け）が発表されたことも上昇に寄与したとみられます。その後7月にかけて、国内外での長期金利の低下が続いたことや、国内での新型コロナウイルスのワクチン接種の進展を受けた経済活動の正常化期待もあり、上昇基調が続きました。8月に入ると、公募増資の増加による需給悪化で上値が重い展開となりました。夏枯れで売買代金が低下する中で大口の売買があり、ボラティリティがやや拡大する中、当作成期末を迎えました。

■ 海外株式市況

海外株式市況は、新型コロナウイルスによる世界経済減速からの回復期待から上昇しました。

海外株式市況は、当作成期首より2021年5月末にかけて、高値警戒感や米国金利上昇への懸念などから調整する局面もありましたが、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展や米国で大規模な追加経済対策が成立し、景気回復への期待が高まったことなどが支援材料となり、堅調に推移しました。6月以降は、新型コロナウイルスデルタ株への懸念や金融緩和縮小の早期化観測などから一時的に調整する局面はあったものの、ワクチン接種が進んで種々の行動制限が解除されたことや良好な企業業績の発表などが好感され、当作成期末の株価は続伸しました。

■ 国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

国内株式市況は、当作成期首より、米国で追加経済対策が発表されたことや、国内の新型コロナウイルスの感染状況が改善したことなどが好感され、上昇しました。その後は、国内で感染が再拡大して再び行動制限措置がとられたことや、内閣支持率の低下で政局の行方に不透明感が増したことで、また世界的にインフレ懸念が台頭して米国の金融緩和縮小の早期化観測が高まったことなどから、上値の重い展開となりました。2021年8月末から当作成期末にかけては、総選挙における政権交代リスクの低下や新規感染者数の減少などから上昇しました。

■ 為替相場

為替相場は上昇（円安）しました。

当作成期首より、経済指標の改善などを背景に米国金利が上昇したことから、米ドルは対円で上昇しました。2021年7月以降は、景気への懸念や物価上昇圧力の鈍化が意識されたことによって米国金利が低下したことを受け、米ドルは上昇幅を縮めました。オーストラリア・ドルは、新型コロナウイルスの感染拡大などが嫌気され、対円で下落しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■ 当ファンド

各マザーファンドを通じて、内外の債券、リートおよび株式に投資を行います。各マザーファンドの受益証券の組入比率については、下記の標準組入比率をめどに投資を行います。

- ・ ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド ……純資産総額の50%
- ・ ダイワ日本国債マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の10%

■ **ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド**

債券は、取得時に信用格付A格相当以上の海外の国債を中心に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざします。ポートフォリオの修正デュレーションは、5（年）程度～10（年）程度の範囲で、各国の市場動向や経済見通しに基づく金利見通しに応じて変動させます。通貨の投資割合は各通貨の市場動向や経済環境などの評価に応じて変動させます。ドル通貨圏、欧州通貨圏をそれぞれ50%程度とし、ドル通貨圏内では米ドル、欧州通貨圏内ではユーロを50%程度とします。

■ **ダイワ日本国債マザーファンド**

運用の基本方針に基づき、わが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間（残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分）の各投資金額がほぼ同程度となるような運用（ラダー型運用）を行ってまいります。

■ **ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド**

安定的な配当利回りの確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。外貨建資産の運用にあたっては、C&Sに運用の指図にかかる権限を委託します。海外リートへの投資にあたっては、個別銘柄の投資価値を分析して、配当利回り、期待される成長性、割安度などを勘案し投資銘柄を選定し、分散投資を行います。

※C&S：コーヘン&スティアーズ・キャピタル・マネジメント・インク

■ **ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド**

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつ国内リートに幅広く分散投資を行い、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。ポートフォリオ構築にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資します。

■ **ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド**

外部調査機関による企業の社会的責任に関する調査等を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組みに着目し、海外株式の中から中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄を選定します。また、株価水準、流動性、分散等を考慮し、ポートフォリオを構築します。

■ **ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド**

株式会社日本総合研究所が行う企業の「社会的責任」に関する調査を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組み状況を評価するESG（環境・社会・ガバナンス）スコア等に注目したポートフォリオ運営を行っていく方針です。世界的な大きな潮流として社会的責任に関する意識が高まっていることから、企業はESG情報の開示を進め、投資家はESGに注力している銘柄や指数を重視する傾向になると想定しています。また、ESGスコアの高い企業は自己資本コストや信用リスクが相対的に低くなる傾向にあり、資金調達コストや業績ボラティリティが抑えやすくなることでROE（自己資本利益率）の改善を伴ったリターンが期待できると考えています。

ポートフォリオについて

(2021.3.9～2021.9.6)

■当ファンド

各マザーファンドの受益証券を通じて、内外の債券、リートおよび株式に投資を行いました。各マザーファンドの受益証券の組入比率については、以下の標準組入比率をめどに投資を行いました。

- ・ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド ……純資産総額の50%
- ・ダイワ日本国債マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の10%

■ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド

債券は、海外の国債を中心に投資しました。ポートフォリオの修正デュレーションは、5（年）程度～10（年）程度の範囲の中で変動させました。通貨の投資割合は、ドル通貨圏、欧州通貨圏をそれぞれ50%程度とし、ドル通貨圏内では米ドル、欧州通貨圏内ではユーロを50%程度としつつ、実質外貨比率を高位に保ちました。

■ダイワ日本国債マザーファンド

運用の基本方針に基づき、当作成期を通じてわが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間（残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分）の各投資金額がほぼ同程度となるような運用（ラダー型運用）を行いました。

■ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド

当ファンドは、外貨建資産の運用にあたって、C&Sに運用の指図にかかる権限を委託しております。当ファンドでは、信託財産の中長期的な成長をめざし保有不動産の価値などと比べてリート価格が魅力的であると考え、銘柄に着目するとともに、安定的な配当利回りの確保をめざしてポートフォリオを構築しました。国・地域別配分では大きなリスクを取らず各地域に分散して投資を行いました。米国では、需給改善が期待されたヘルスケアリートや、電子商取引に関連した需要増加が期待される産業施設リートなどに注目しました。欧州では、安定したキャッシュフロー成長が見込まれるセクターである貸倉庫を保有するリートやヘルスケアリートに、アジア・オセアニアでは、オーストラリアの産業施設リートなどに注目しました。

■ ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド

リートの組入比率につきましては、通常の状態では信託財産の純資産総額の80%程度以上に維持することを基本としており、おおむね95~98%台程度で推移させました。また、東証REIT指数先物への投資も行い、先物と合計で95~100%程度で推移させました。リート銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資しました。個別銘柄では、当作成期を通じてみると、ジャパンリアルエステイト、三菱地所物流リート、森ヒルズリートなどを東証REIT指数と比較してオーバーウエートとし、大和証券リビング、日本ロジスティクスファンド、インベスコ・オフィス・ジェイリートなどをアンダーウエートとしました。

■ ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド

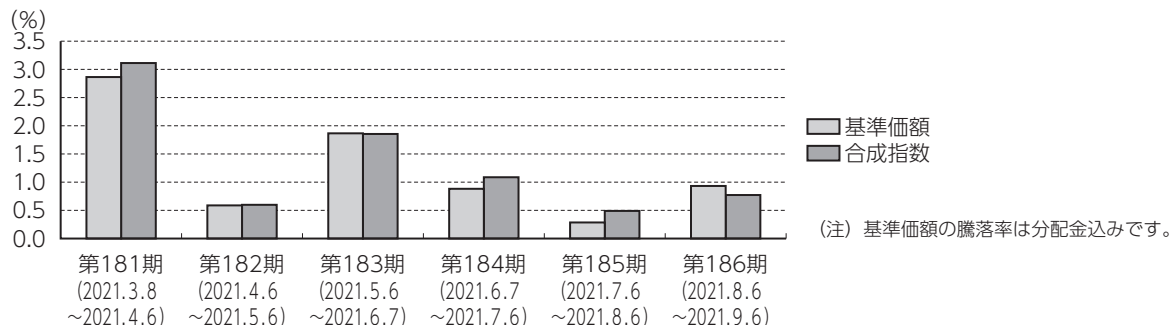
外部調査機関による企業の社会的責任に関する調査等を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組みに着目し、海外株式の中から中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄に投資し、株式組入比率は90%程度以上を維持しました。個別銘柄では、業績見通し、株価水準、株価バリュエーション等を総合的に勘案して、APPLE INC (米国)、MICROSOFT CORP (米国)、ALPHABET INC-CL C (米国)などを組入上位としました。

■ ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド

株式会社日本総合研究所から提供される調査情報をもとに、持続可能なより良い社会への企業の取り組みに着目し、中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄に投資し、株式組入比率は90%程度以上を維持しました。業種構成は、化学、電気機器、機械などの組入比率を高位にしました。個別銘柄では、テルモ、トヨタ自動車、リクルートホールディングスなどを組入上位としました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第181期	第182期	第183期	第184期	第185期	第186期
	2021年3月9日 ～2021年4月6日	2021年4月7日 ～2021年5月6日	2021年5月7日 ～2021年6月7日	2021年6月8日 ～2021年7月6日	2021年7月7日 ～2021年8月6日	2021年8月7日 ～2021年9月6日
当期分配金（税込み）（円）	10	10	10	10	10	10
対基準価額比率（%）	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
当期の収益（円）	10	10	10	10	10	10
当期の収益以外（円）	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額（円）	570	618	792	871	890	975

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第181期	第182期	第183期	第184期	第185期	第186期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 19.97円	✓ 9.72円	✓ 13.66円	✓ 14.83円	✓ 9.79円	✓ 16.32円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	226.10	✓ 48.44	170.18	74.67	✓ 19.33	78.61
(c) 収益調整金	54.14	54.59	56.82	57.80	58.69	59.38
(d) 分配準備積立金	279.80	515.41	561.38	734.25	812.88	831.33
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	580.01	628.19	802.05	881.57	900.71	985.66
(f) 分配金	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	570.01	618.19	792.05	871.57	890.71	975.66

（注）✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

各マザーファンドを通じて、内外の債券、リートおよび株式に投資を行います。各マザーファンドの受益証券の組入比率については、下記の標準組入比率をめどに投資を行います。

- ・ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド ……純資産総額の50%
- ・ダイワ日本国債マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の10%
- ・ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の10%

■ **ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド**

債券は、取得時に信用格付A格相当以上の海外の国債を中心に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざします。ポートフォリオの修正デュレーションは、5（年）程度～10（年）程度の範囲で、各国の市場動向や経済見通しに基づく金利見通しに応じて変動させます。通貨の投資割合は各通貨の市場動向や経済環境などの評価に応じて変動させます。ドル通貨圏、欧州通貨圏をそれぞれ50%程度とし、ドル通貨圏内では米ドル、欧州通貨圏内ではユーロを50%程度とします。

■ **ダイワ日本国債マザーファンド**

運用の基本方針に基づき、わが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間（残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分）の各投資金額がほぼ同程度となるような運用（ラダー型運用）を行ってまいります。

■ **ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド**

安定的な配当利回りの確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。外貨建資産の運用にあたっては、C&Sに運用の指図にかかる権限を委託します。海外リートへの投資にあたっては、個別銘柄の投資価値を分析して、配当利回り、期待される成長性、割安度などを勘案し投資銘柄を選定し、分散投資を行います。

■ **ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド**

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつ国内リートに幅広く分散投資を行い、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。ポートフォリオ構築にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資します。

■ **ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド**

外部調査機関による企業の社会的責任に関する調査等を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組みに着目し、海外株式の中から中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄を選定します。また、株価水準、流動性、分散等を考慮し、ポートフォリオを構築します。

■ **ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド**

株式会社日本総合研究所が行う企業の「社会的責任」に関する調査を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組み状況を評価するESG（環境・社会・ガバナンス）スコア等に注目したポートフォリオ運営を行っていく方針です。世界的な大きな潮流として社会的責任に関する意識が高まっていることから、企業はESG情報の開示を進め、投資家はESGに注力している銘柄や指数を重視する傾向になると想定しています。また、ESGスコアの高い企業は自己資本コストや信用リスクが相対的に低くなる傾向にあり、資金調達コストや業績ボラティリティが抑えやすくなることでROE（自己資本利益率）の改善を伴ったリターンが期待できると考えています。



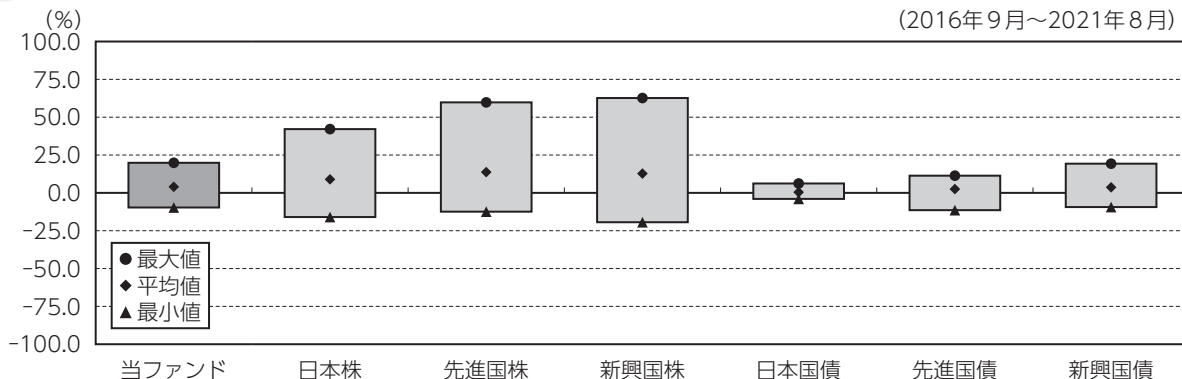
当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	下記の各マザーファンドの受益証券
	ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド	内外の公社債等
	ダイワ日本国債マザーファンド	わが国の公社債
	ダイワ・グローバル R E I T ・マザーファンド	海外の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）および店頭登録（登録予定を含みます。）の不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券
	ダイワJ-R E I T アクティブ・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券
	ダイワ外国ハーマニー ストック・マザーファンド	海外の金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。）
	ダイワ日本ハーマニー ストック・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式（上場予定を含みます。）
ベビーファンド の運用方法	<p>①主として、マザーファンドを通じて内外の公社債、不動産投資信託証券および株式に投資を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。</p> <p>②各マザーファンドの受益証券の組入比率については、下記の標準組入比率をめどに投資を行ないます。ただし、市場規模等によっては、組入比率を変更することがあります。</p> <p>ダイワ・外債ソブリン・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の50%</p> <p>ダイワ日本国債マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の10%</p> <p>ダイワ・グローバルR E I T ・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の10%</p> <p>ダイワJ-R E I T アクティブ・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の10%</p> <p>ダイワ外国ハーマニーストック・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の10%</p> <p>ダイワ日本ハーマニーストック・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の10%</p> <p>③保有実質外貨建資産について、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは行ないません。なお、保有外貨建資産の売買代金、償還金、利金等の受取りまたは支払いにかかる為替予約等を行なうことができるものとします。</p>	
分配方針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざして分配金額を決定します。なお、3月と9月の計算期末について、基準価額の水準等によっては、今後の安定分配を継続するための分配原資の水準を考慮して売買益（評価益を含みます。）等を中心に分配する場合があります。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。</p>	

※ F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	19.9	42.1	59.8	62.7	6.2	11.4	19.3
平均値	4.0	8.9	13.7	12.8	0.4	2.5	3.7
最小値	-9.7	-16.0	-12.4	-19.4	-4.0	-11.4	-9.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



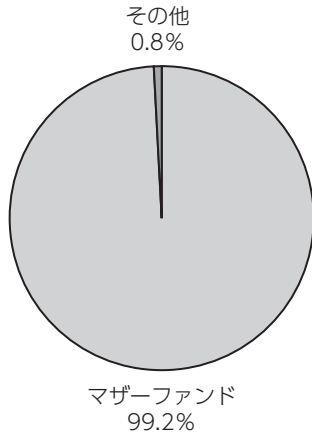
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

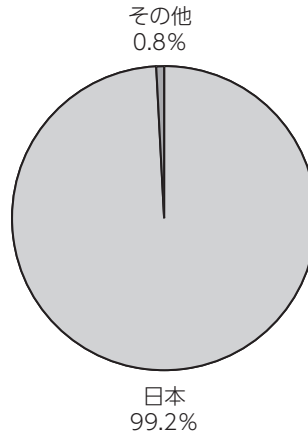
組入ファンド等

	比率
ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド	48.9%
ダイワ日本ハーモニースtock・マザーファンド	10.4
ダイワ外国ハーモニースtock・マザーファンド	10.1
ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド	10.1
ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド	9.9
ダイワ日本国債マザーファンド	9.7
その他	0.8

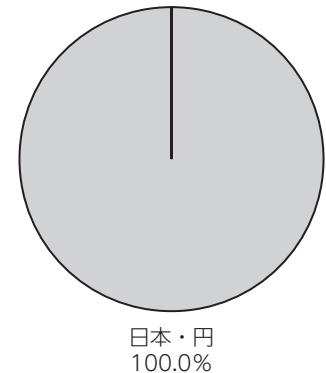
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2021年9月6日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

項 目	第181期末	第182期末	第183期末	第184期末	第185期末	第186期末
	2021年4月6日	2021年5月6日	2021年6月7日	2021年7月6日	2021年8月6日	2021年9月6日
純資産総額	3,112,343,195円	3,082,202,251円	3,127,090,756円	3,126,856,273円	3,128,018,576円	3,146,557,541円
受益権総口数	3,154,193,203口	3,108,469,579口	3,099,259,401口	3,074,785,080口	3,070,164,330口	3,062,828,141口
1万口当り基準価額	9,867円	9,915円	10,090円	10,169円	10,188円	10,273円

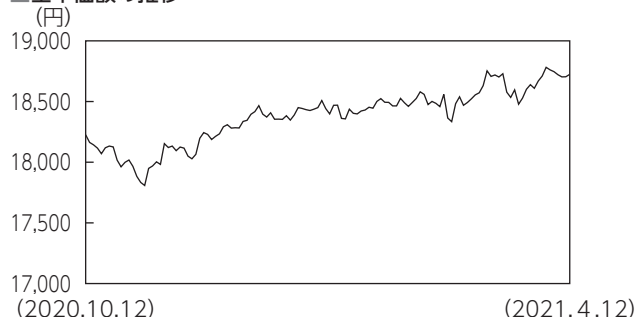
* 当作成期間（第181期～第186期）中における追加設定元本額は26,804,737円、同解約元本額は176,199,164円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

組入上位ファンドの概要

◆ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド (作成対象期間 2020年10月13日～2021年4月12日)

■基準価額の推移



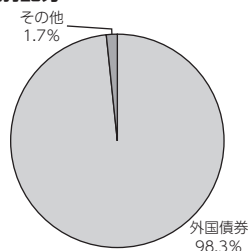
■1万口当りの費用の明細

項	目	
売買委託手数料		—円
有価証券取引税		—
その他費用 (保管費用)		2 (2)
(その他)		(0)
合	計	2

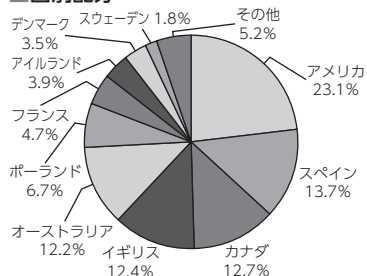
■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
United States Treasury Note/Bond 0.875% 2030/11/15	アメリカ・ドル	13.2%
United States Treasury Note/Bond 2.25% 2027/8/15	アメリカ・ドル	9.9
AUSTRALIAN GOVERNMENT BOND 4.5% 2033/4/21	オーストラリア・ドル	9.7
SPANISH GOVERNMENT BOND 1.95% 2026/4/30	ユーロ	6.6
SPANISH GOVERNMENT BOND 1.4% 2028/4/30	ユーロ	6.2
FRENCH GOVERNMENT BOND 3.25% 2045/5/25	ユーロ	4.7
CANADIAN GOVERNMENT BOND 1.5% 2026/6/1	カナダ・ドル	4.1
Poland Government Bond 2.75% 2028/4/25	ポーランド・ズロチ	3.8
CANADA HOUSING TRUST 2.25% 2025/12/15	カナダ・ドル	3.4
United Kingdom Gilt 1.5% 2026/7/22	イギリス・ポンド	3.4
組入銘柄数		30銘柄

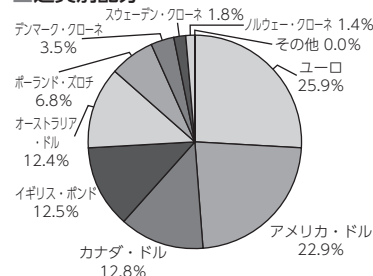
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のもです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

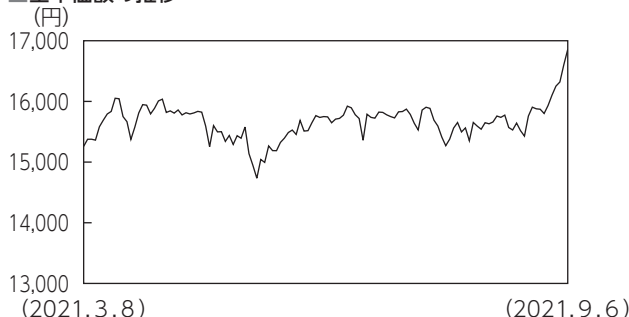
(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ダイワ日本ハーモニースtock・マザーファンド (作成対象期間 2021年3月9日～2021年9月6日)

■基準価額の推移



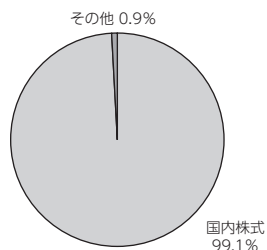
■1万口当りの費用の明細

項	目	
売買委託手数料		9円
(株式)		(9)
有価証券取引税		—
その他費用		0
(その他)		(0)
合	計	9

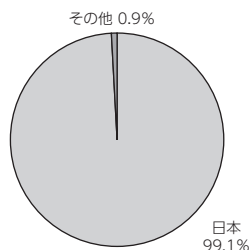
■組入上位銘柄

銘柄名	比率
テルモ	4.7%
トヨタ自動車	4.4
リクルートホールディングス	4.2
ダイキン工業	3.8
信越化学	3.8
ユニ・チャーム	3.4
NTTデータ	3.2
SMC	3.2
オリエンタルランド	3.1
武田薬品	3.0
組入銘柄数	44銘柄

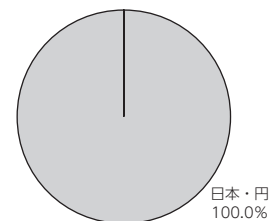
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

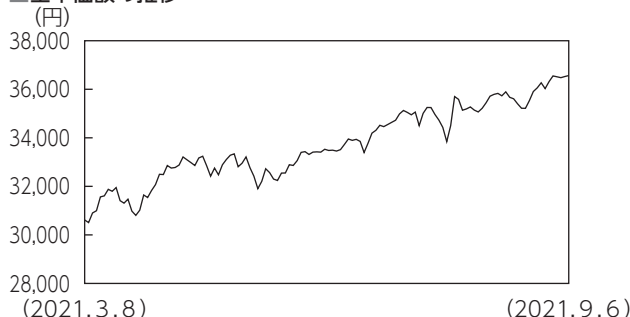
(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

◆ダイワ外国ハーモニースtock・マザーファンド (作成対象期間 2021年3月9日～2021年9月6日)

■基準価額の推移



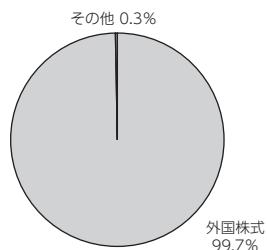
■1万口当りの費用の明細

項目	金額
売買委託手数料 (株式)	18円 (18)
有価証券取引税 (株式)	4 (4)
その他費用 (保管費用) (その他)	27 (27) (0)
合計	50

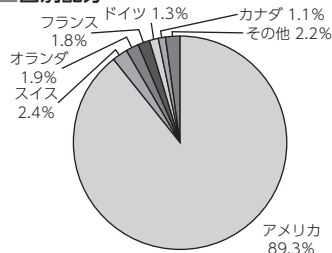
■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
APPLE INC	アメリカ・ドル	6.1%
MICROSOFT CORP	アメリカ・ドル	6.0
ALPHABET INC-CL C	アメリカ・ドル	6.0
NVIDIA CORP	アメリカ・ドル	3.3
FACEBOOK INC-CLASS A	アメリカ・ドル	3.1
AMAZON.COM INC	アメリカ・ドル	2.9
ASML HOLDING NV	ユーロ	1.9
ADOBE INC	アメリカ・ドル	1.5
ZSCALER INC	アメリカ・ドル	1.4
TESLA INC	アメリカ・ドル	1.3
組入銘柄数		168銘柄

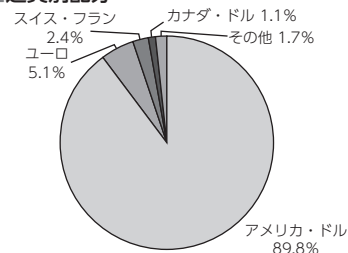
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

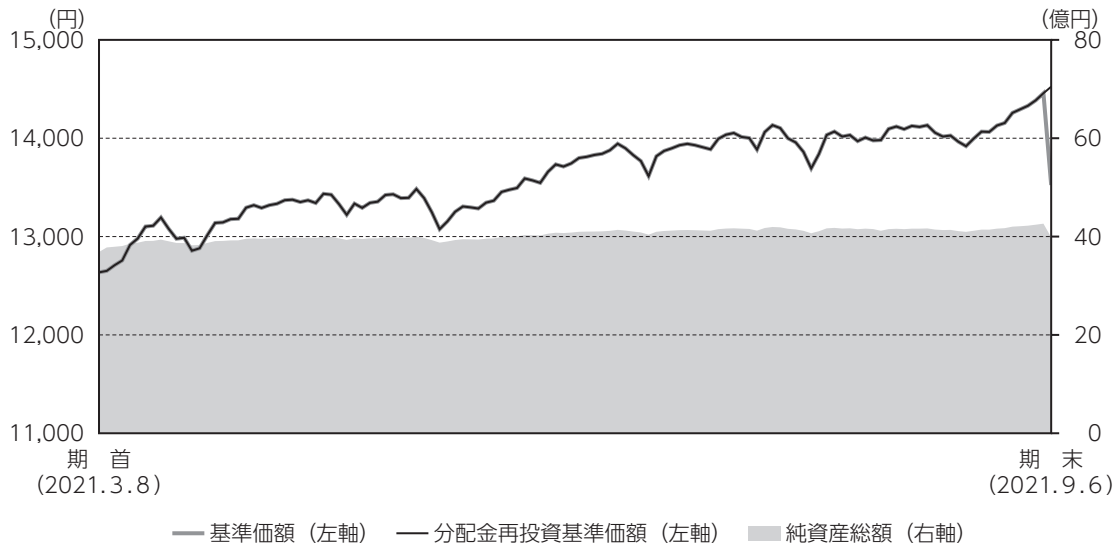
*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

成長型



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：12,636円

期末：13,524円（分配金1,000円）

騰落率：14.9%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

各マザーファンドの受益証券を通じて、内外の債券、株式およびリートに投資した結果、主に内外の株式市況やリート市況が上昇したことがプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

■ 組入ファンドの当作成期中の騰落率と期末の組入比率

組入ファンド	騰落率	比率
ダイワ日本ハーモニースtock・マザーファンド	10.5%	25.7%
ダイワ外国ハーモニースtock・マザーファンド	19.4%	24.5%
ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド	24.9%	20.0%
ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド	17.2%	19.4%
ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド	2.8%	4.8%
ダイワ日本国債マザーファンド	0.6%	4.7%

1 万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2021.3.9~2021.9.6)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	101円	0.740%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は13,636円です。
(投 信 会 社)	(52)	(0.384)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(45)	(0.329)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(4)	(0.027)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	7	0.052	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(4)	(0.027)	
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
(投資信託証券)	(3)	(0.025)	
有 価 証 券 取 引 税	1	0.009	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(0)	(0.003)	
(投資信託証券)	(1)	(0.006)	
そ の 他 費 用	3	0.022	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(3)	(0.023)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(△1)	(△0.005)	税金の戻し、信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	112	0.823	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

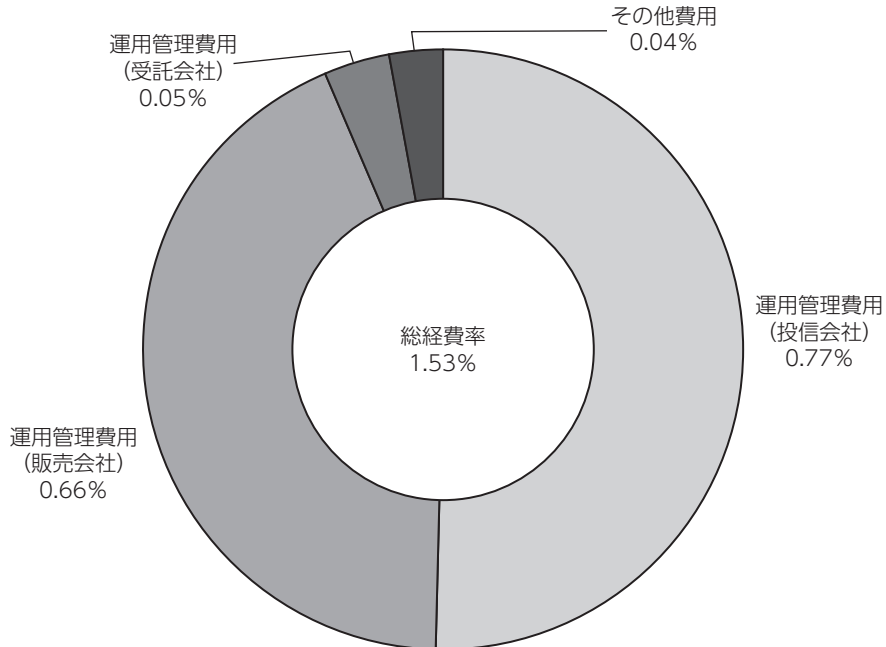
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.53%です。

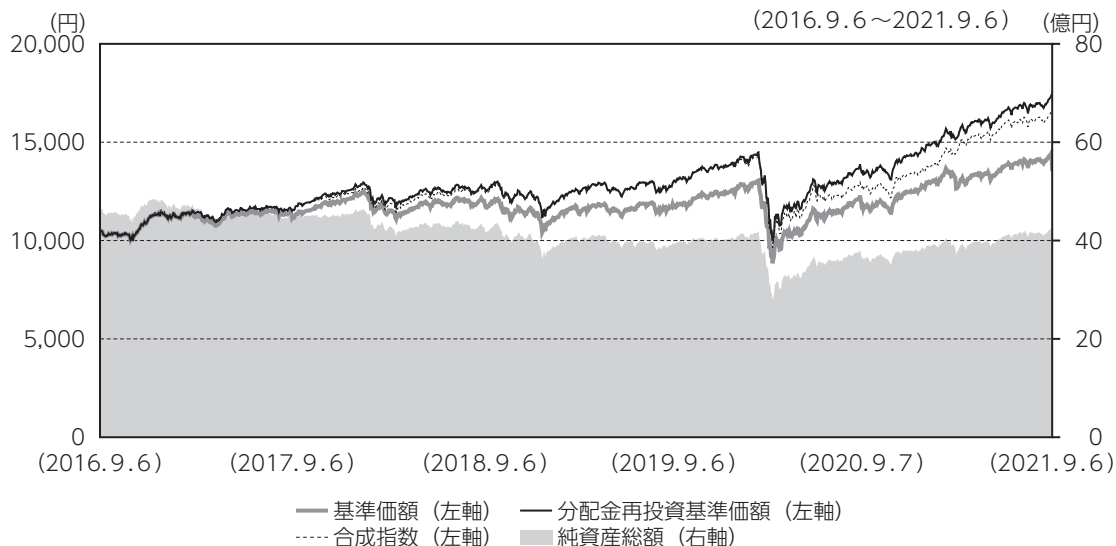


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2016年9月6日の基準価額をもとに指数化したものです。

*参考指数は合成指数です。

	2016年9月6日 期初	2017年9月6日 決算日	2018年9月6日 決算日	2019年9月6日 決算日	2020年9月7日 決算日	2021年9月6日 決算日
基準価額 (円)	10,557	11,111	11,764	11,714	11,739	13,524
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	400	400	400	400	1,600
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	9.0	9.6	3.0	3.7	29.6
合成指数騰落率 (%)	—	8.6	8.7	3.9	△2.0	31.1
純資産総額 (百万円)	4,654	4,363	4,178	3,912	3,642	3,983

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 合成指数は、下記の指数と配分比率をもとに大和アセットマネジメントが計算したものです。海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

投資対象資産	指数	配分比率
海外債券	F T S E世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	5%
国内債券	ダイワ・ボンド・インデックス (D B I) 国債指数	5%
海外リート	S & P先進国R E I T指数 (除く日本、円換算)	20%
国内リート	東証R E I T指数 (配当込み)	20%
海外株式	M S C Iコクサイ指数 (円換算)	25%
国内株式	T O P I X	25%

(注) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

投資環境について

(2021.3.9～2021.9.6)

■ 海外債券市況

海外債券市況は、金利低下（債券価格は上昇）しました。

当作成期首より、米国金利はレンジで推移しましたが、2021年6月以降は、将来の利上げ後の経済回復ペースや物価上昇圧力の鈍化が意識されたことで、長期ゾーンを中心に金利は低下しました。またオーストラリアも、新型コロナウイルスの感染者数拡大などから成長率鈍化が意識され、金利低下となりました。

■ 国内債券市況

国内債券市場では、長期金利は低下しました。

2021年3月の金融政策決定会合で日銀が長期金利の変動幅の明確化等を決定しましたが、政策の大枠に変更はなく、その後、国内長期金利は上下に変動しつつも基調として低下しました。6月以降は、米国長期金利の低下や新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、国内長期金利は低下しました。

■ 海外リート市況

海外リート市況は上昇しました。

米国では、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展による経済正常化期待や、好調な決算発表などを好感して上昇しました。欧州では、ワクチン普及による経済正常化期待や隔離措置の緩和などを受けて、英国やドイツを中心に上昇しました。アジア・オセアニアでは、好調な業績見通しなどを背景に、オーストラリアが上昇しました。

■ 国内リート市況

国内リート市況は上昇しました。

国内リート市況は、当作成期首より、国内外での金利上昇懸念が後退したことに加えて、FTSEグローバル株式指数による国内リーートの組入比率引き上げなどにより需給が改善し、上昇しました。2021年4月には、米国投資ファンドによる中堅オフィス銘柄へのTOB（投資口公開買い付け）が発表されたことも上昇に寄与したとみられます。その後7月にかけて、国内外での長期金利の低下が続いたことや、国内での新型コロナウイルスのワクチン接種の進展を受けた経済活動の正常化期待もあり、上昇基調が続きました。8月に入ると、公募増資の増加による需給悪化で上値が重い展開となりました。夏枯れで売買代金が低下する中で大口の売買があり、ボラティリティがやや拡大する中、当作成期末を迎えました。

■ 海外株式市況

海外株式市況は、新型コロナウイルスによる世界経済減速からの回復期待から上昇しました。

海外株式市況は、当作成期首より2021年5月末にかけて、高値警戒感や米国金利上昇への懸念などから調整する局面もありましたが、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展や米国で大規模な追加経済対策が成立し、景気回復への期待が高まったことなどが支援材料となり、堅調に推移しました。6月以降は、新型コロナウイルスデルタ株への懸念や金融緩和縮小の早期化観測などから一時的に調整する局面はあったものの、ワクチン接種が進んで種々の行動制限が解除されたことや良好な企業業績の発表などが好感され、当作成期末の株価は続伸しました。

■ 国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

国内株式市況は、当作成期首より、米国で追加経済対策が発表されたことや、国内の新型コロナウイルスの感染状況が改善したことなどが好感され、上昇しました。その後は、国内で感染が再拡大して再び行動制限措置がとられたことや、内閣支持率の低下で政局の行方に不透明感が増したことで、また世界的にインフレ懸念が台頭して米国の金融緩和縮小の早期化観測が高まったことなどから、上値の重い展開となりました。2021年8月末から当作成期末にかけては、総選挙における政権交代リスクの低下や新規感染者数の減少などから上昇しました。

■ 為替相場

為替相場は上昇（円安）しました。

当作成期首より、経済指標の改善などを背景に米国金利が上昇したことから、米ドルは対円で上昇しました。2021年7月以降は、景気への懸念や物価上昇圧力の鈍化が意識されたことによって米国金利が低下したことを受け、米ドルは上昇幅を縮めました。オーストラリア・ドルは、新型コロナウイルスの感染拡大などが嫌気され、対円で下落しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■ 当ファンド

各マザーファンドを通じて、内外の債券、リートおよび株式に投資を行います。各マザーファンドの受益証券の組入比率については、下記の標準組入比率をめどに投資を行います。

- ・ ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド ……純資産総額の5%
- ・ ダイワ日本国債マザーファンド ……純資産総額の5%
- ・ ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド ……純資産総額の20%
- ・ ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド ……純資産総額の20%
- ・ ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の25%
- ・ ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の25%

■ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド

債券は、取得時に信用格付A格相当以上の海外の国債を中心に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざします。ポートフォリオの修正デュレーションは、5（年）程度～10（年）程度の範囲で、各国の市場動向や経済見通しに基づく金利見通しに応じて変動させます。通貨の投資割合は各通貨の市場動向や経済環境などの評価に応じて変動させます。ドル通貨圏、欧州通貨圏をそれぞれ50%程度とし、ドル通貨圏内では米ドル、欧州通貨圏内ではユーロを50%程度とします。

■ダイワ日本国債マザーファンド

運用の基本方針に基づき、わが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間（残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分）の各投資金額がほぼ同程度となるような運用（ラダー型運用）を行ってまいります。

■ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド

安定的な配当利回りの確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。外貨建資産の運用にあたっては、C&Sに運用の指図にかかる権限を委託します。海外リートへの投資にあたっては、個別銘柄の投資価値を分析して、配当利回り、期待される成長性、割安度などを勘案し投資銘柄を選定し、分散投資を行います。

※C&S：コーペン&スティアーズ・キャピタル・マネジメント・インク

■ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつ国内リートに幅広く分散投資を行い、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。ポートフォリオ構築にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資します。

■ダイワ外国ハーモニースtock・マザーファンド

外部調査機関による企業の社会的責任に関する調査等を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組みに着目し、海外株式の中から中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄を選定します。また、株価水準、流動性、分散等を考慮し、ポートフォリオを構築します。

■ダイワ日本ハーモニースtock・マザーファンド

株式会社日本総合研究所が行う企業の「社会的責任」に関する調査を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組み状況を評価するESG（環境・社会・ガバナンス）スコア等に注目したポートフォリオ運営を行っていく方針です。世界的な大きな潮流として社会的責任に関する意識が高まっていることから、企業はESG情報の開示を進め、投資家はESGに注力している銘柄や指数を重視する傾向になると想定しています。また、ESGスコアの高い企業は自己資本コストや信用リスクが相対的に低くなる傾向にあり、資金調達コストや業績ボラティリティが抑えやすくなることでROE（自己資本利益率）の改善を伴ったリターンが期待できると考えています。

ポートフォリオについて

(2021.3.9～2021.9.6)

■当ファンド

各マザーファンドの受益証券を通じて、内外の債券、リートおよび株式に投資を行いました。各マザーファンドの受益証券の組入比率については、以下の標準組入比率をめどに投資を行いました。

- ・ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド ……純資産総額の5%
- ・ダイワ日本国債マザーファンド ……純資産総額の5%
- ・ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド ……純資産総額の20%
- ・ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド ……純資産総額の20%
- ・ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の25%
- ・ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド ……純資産総額の25%

■ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド

債券は、海外の国債を中心に投資しました。ポートフォリオの修正デュレーションは、5（年）程度～10（年）程度の範囲の中で変動させました。通貨の投資割合は、ドル通貨圏、欧州通貨圏をそれぞれ50%程度とし、ドル通貨圏内では米ドル、欧州通貨圏内ではユーロを50%程度としつつ、実質外貨比率を高位に保ちました。

■ダイワ日本国債マザーファンド

運用の基本方針に基づき、当作成期を通じてわが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間（残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分）の各投資金額がほぼ同程度となるような運用（ラダー型運用）を行いました。

■ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド

当ファンドは、外貨建資産の運用にあたって、C&Sに運用の指図にかかる権限を委託しております。当ファンドでは、信託財産の中長期的な成長をめざし保有不動産の価値などと比べてリート価格が魅力的であると考え、銘柄に着目するとともに、安定的な配当利回りの確保をめざしてポートフォリオを構築しました。国・地域別配分では大きなリスクを取らず各地域に分散して投資を行いました。米国では、需給改善が期待されたヘルスケアリートや、電子商取引に関連した需要増加が期待される産業施設リートなどに注目しました。欧州では、安定したキャッシュフロー成長が見込まれるセクターである貸倉庫を保有するリートやヘルスケアリートに、アジア・オセアニアでは、オーストラリアの産業施設リートなどに注目しました。

■ ダイワ J-REIT アクティブ・マザーファンド

リートの組入比率につきましては、通常の状態では信託財産の純資産総額の80%程度以上に維持することを基本としており、おおむね95~98%台程度で推移させました。また、東証REIT指数先物への投資も行い、先物と合計で95~100%程度で推移させました。リート銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資しました。個別銘柄では、当作成期を通じてみると、ジャパンリアルエステイト、三菱地所物流リート、森ヒルズリートなどを東証REIT指数と比較してオーバーウエートとし、大和証券リビング、日本ロジスティクスファンド、インベスコ・オフィス・ジェイリートなどをアンダーウエートとしました。

■ ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド

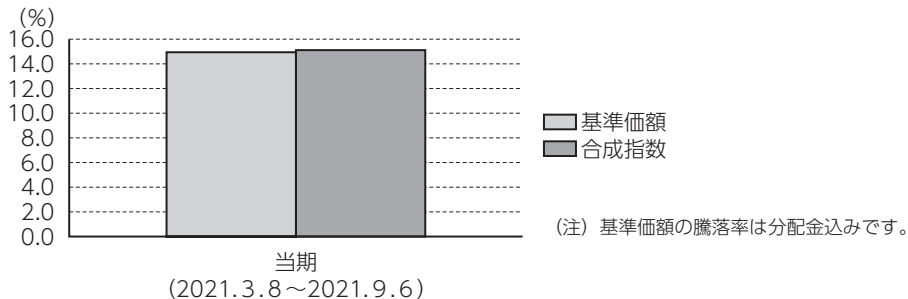
外部調査機関による企業の社会的責任に関する調査等を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組みに着目し、海外株式の中から中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄に投資し、株式組入比率は90%程度以上を維持しました。個別銘柄では、業績見通し、株価水準、株価バリュエーション等を総合的に勘案して、APPLE INC（米国）、MICROSOFT CORP（米国）、ALPHABET INC-CL C（米国）などを組入上位としました。

■ ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド

株式会社日本総合研究所から提供される調査情報をもとに、持続可能なより良い社会への企業の取り組みに着目し、中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄に投資し、株式組入比率は90%程度以上を維持しました。業種構成は、化学、電気機器、機械などの組入比率を高位にしました。個別銘柄では、テルモ、トヨタ自動車、リクルートホールディングスなどを組入上位としました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■ 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2021年3月9日 ～2021年9月6日	
当期分配金（税込み）	（円）	1,000
対基準価額比率	（％）	6.89
当期の収益	（円）	1,000
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	3,670

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■ 収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当	期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓	129.21円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓	1,737.41
(c) 収益調整金		833.18
(d) 分配準備積立金		1,970.99
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)		4,670.82
(f) 分配金		1,000.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)		3,670.82

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■ 当ファンド

各マザーファンドを通じて、内外の債券、リートおよび株式に投資を行います。各マザーファンドの受益証券の組入比率については、下記の標準組入比率をめぐりに投資を行います。

- ・ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド ……純資産総額の5%
- ・ダイワ日本国債マザーファンド ……純資産総額の5%
- ・ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド ……純資産総額の20%
- ・ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド ……純資産総額の20%
- ・ダイワ外国ハーモニースtock・マザーファンド ……純資産総額の25%
- ・ダイワ日本ハーモニースtock・マザーファンド ……純資産総額の25%

■ **ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド**

債券は、取得時に信用格付A格相当以上の海外の国債を中心に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざします。ポートフォリオの修正デュレーションは、5（年）程度～10（年）程度の範囲で、各国の市場動向や経済見通しに基づく金利見通しに応じて変動させます。通貨の投資割合は各通貨の市場動向や経済環境などの評価に応じて変動させます。ドル通貨圏、欧州通貨圏をそれぞれ50%程度とし、ドル通貨圏内では米ドル、欧州通貨圏内ではユーロを50%程度とします。

■ **ダイワ日本国債マザーファンド**

運用の基本方針に基づき、わが国の国債の組入比率を高位に保ちつつ、1年ごとの残存期間（残存1年未満、残存1年以上2年未満、…、残存14年以上15年未満など、全15区分）の各投資金額がほぼ同程度となるような運用（ラダー型運用）を行ってまいります。

■ **ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド**

安定的な配当利回りの確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。外貨建資産の運用にあたっては、C&Sに運用の指図にかかる権限を委託します。海外リートへの投資にあたっては、個別銘柄の投資価値を分析して、配当利回り、期待される成長性、割安度などを勘案し投資銘柄を選定し、分散投資を行います。

■ **ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド**

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつ国内リートに幅広く分散投資を行い、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。ポートフォリオ構築にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資します。

■ **ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド**

外部調査機関による企業の社会的責任に関する調査等を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組みに着目し、海外株式の中から中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄を選定します。また、株価水準、流動性、分散等を考慮し、ポートフォリオを構築します。

■ **ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド**

株式会社日本総合研究所が行う企業の「社会的責任」に関する調査を参考に、持続可能なより良い社会への企業の取り組み状況を評価するESG（環境・社会・ガバナンス）スコア等に注目したポートフォリオ運営を行っていく方針です。世界的な大きな潮流として社会的責任に関する意識が高まっていることから、企業はESG情報の開示を進め、投資家はESGに注力している銘柄や指数を重視する傾向になると想定しています。また、ESGスコアの高い企業は自己資本コストや信用リスクが相対的に低くなる傾向にあり、資金調達コストや業績ボラティリティが抑えやすくなることでROE（自己資本利益率）の改善を伴ったリターンが期待できると考えています。



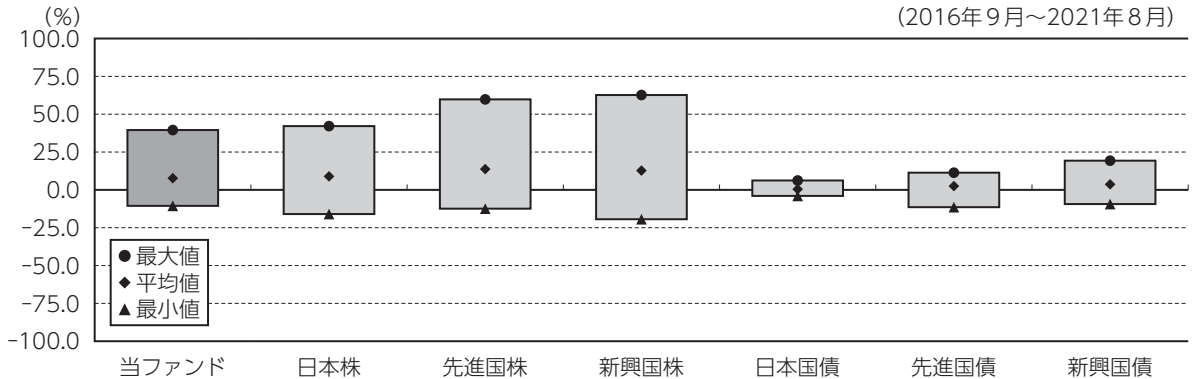
当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	下記の各マザーファンドの受益証券
	ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド	内外の公社債等
	ダイワ日本国債マザーファンド	わが国の公社債
	ダイワ・グローバル R E I T ・マザーファンド	海外の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）および店頭登録（登録予定を含みます。）の不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券
	ダイワJ-R E I T アクティブ・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券
	ダイワ外国ハーモニー ストック・マザーファンド	海外の金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。）
	ダイワ日本ハーモニー ストック・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式（上場予定を含みます。）
ベビーファンド の運用方法	<p>①主として、マザーファンドを通じて内外の公社債、不動産投資信託証券および株式に投資を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。</p> <p>②各マザーファンドの受益証券の組入比率については、下記の標準組入比率をめどに投資を行ないます。ただし、市場規模等によっては、組入比率を変更することがあります。</p> <p>ダイワ・外債ソブリン・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の5%</p> <p>ダイワ日本国債マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の5%</p> <p>ダイワ・グローバルR E I T ・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の20%</p> <p>ダイワJ-R E I T アクティブ・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の20%</p> <p>ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の25%</p> <p>ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンドの受益証券……………信託財産の純資産総額の25%</p> <p>③保有実質外貨建資産について、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは行ないません。なお、保有外貨建資産の売買代金、償還金、利金等の受取りまたは支払いにかかる為替予約等を行なうことができるものとします。</p>	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、配当等収益等を中心に分配を行ないます。ただし、基準価額の水準等によっては売買益（評価益を含みます。）等を中心に分配する場合があります。また、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

※ F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	39.5	42.1	59.8	62.7	6.2	11.4	19.3
平均値	7.7	8.9	13.7	12.8	0.4	2.5	3.7
最小値	△10.6	△16.0	△12.4	△19.4	△4.0	△11.4	△9.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東証証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



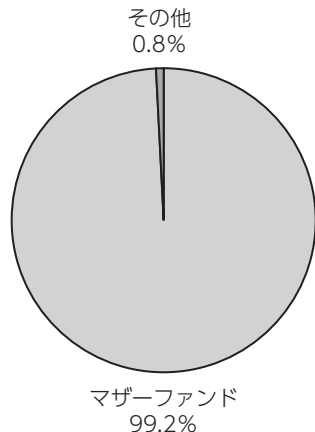
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

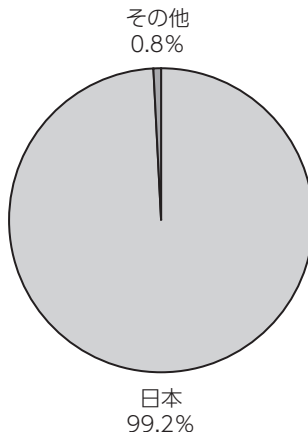
組入ファンド等

	比率
ダイワ日本ハーモニースtock・マザーファンド	25.7%
ダイワ外国ハーモニースtock・マザーファンド	24.5
ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド	20.0
ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド	19.4
ダイワ・外債ソブリン・マザーファンド	4.8
ダイワ日本国債マザーファンド	4.7
その他	0.8

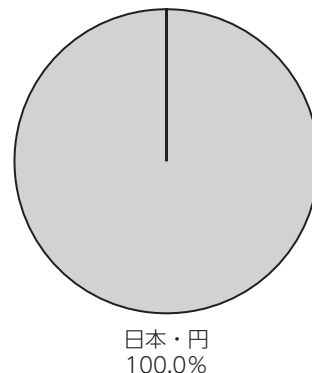
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2021年9月6日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

項目	当期末
	2021年9月6日
純資産総額	3,983,993,188円
受益権総口数	2,945,793,703口
1万口当り基準価額	13,524円

* 当期中における追加設定元本額は123,956,060円、同解約元本額は95,216,953円です。

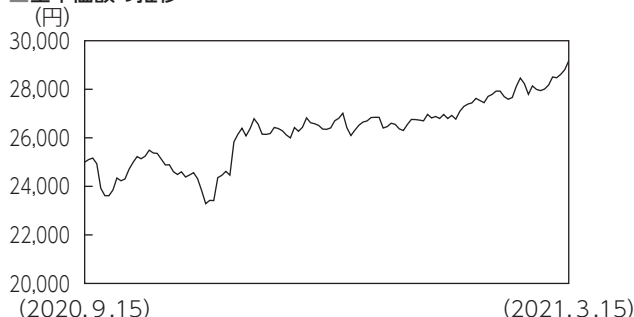
* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

組入上位ファンドの概要

- ◆ **ダイワ日本ハーモニーストック・マザーファンド**（作成対象期間 2021年3月9日～2021年9月6日）
16ページをご参照ください。
- ◆ **ダイワ外国ハーモニーストック・マザーファンド**（作成対象期間 2021年3月9日～2021年9月6日）
17ページをご参照ください。

◆ダイワ・グローバルREIT・マザーファンド (作成対象期間 2020年9月16日～2021年3月15日)

■基準価額の推移



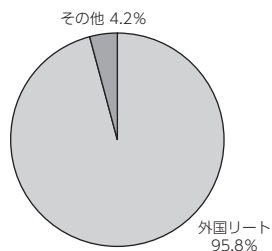
■1万口当りの費用の明細

項目	
売買委託手数料 (投資信託証券)	10円 (10)
有価証券取引税 (投資信託証券)	10 (10)
その他費用 (保管費用) (その他)	18 (3) (15)
合計	38

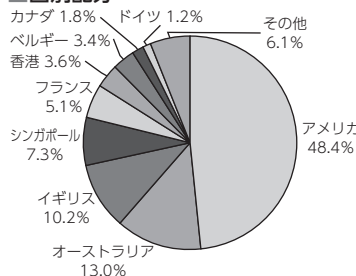
■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
GOODMAN GROUP	オーストラリア・ドル	3.8%
LINK REIT	香港・ドル	3.6
MIRVAC GROUP	オーストラリア・ドル	3.6
PUBLIC STORAGE	アメリカ・ドル	3.5
CHARTER HALL GROUP	オーストラリア・ドル	3.2
DUKE REALTY CORP	アメリカ・ドル	2.9
SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ・ドル	2.6
VENTAS INC	アメリカ・ドル	2.5
KLEPIERRE	ユーロ	2.5
UDR INC	アメリカ・ドル	2.4
組入銘柄数		67銘柄

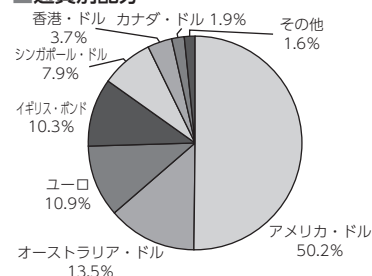
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

Memo

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management